

県立川西緑台高等学校 令和6年度 学校評価（教職員用）

学校教育目標		令和6年度 重点的な教育活動
(1) 高い志、豊かな創造力、開拓者精神を培い、国際社会で活躍できるリーダーを育成する。 (2) 育成する生徒像 ①知・徳・体の調和がとれ、生涯にわたって自己の資質能力向上に努力する生徒 ②幅広い教養と、多様な価値観を理解する想像力を有し、他者と協働して課題を解決しようとし続ける生徒 ③母国の文化と郷土を誇りに感じ、社会の発展に貢献する生徒		(1) 学習指導の充実 (2) 生徒指導の充実 (3) 進路指導の充実 (4) 体験活動の重視 (5) 情報の発信と評価 (6) 学校の組織力の向上
スクール・ポリシー		
グラデュエーション・ポリシー <育成をめざす資質・能力に関する方針> ①幅広い教養と体力を育成する。 ②自らの考えをまとめ、それを発信する力を育成する。 ③対話を通じて、多様な考えを協働に繋げる力を育成する。 ④社会の変化に関心を持ち、課題に気づき柔軟に対応する力を育成する。 ⑤国際的な視点を持ち、安全な社会の創造に取り組む力を育成する。	カリキュラム・ポリシー <教育課程の編成及び実施に関する方針> ① 思考力・判断力・表現力を培うため、ICTを活用する効率的な65分授業を実施する。 ② 社会で課題を発見し解決できる資質・能力を養成するために、自ら学ぶ力を育てる教科学習とそれらを活用する探究活動を展開する。 ③ 自由と規律が調和した学校生活をおとして、自律した人格を育成する生徒指導を展開する。 ④ 生徒が意思疎通を図りながら一つの取組を成し遂げる協働性を育成するため、主体的に活動する学校行事や課外活動を展開する。 ⑤社会と関わり社会に貢献する意思と力を培うため、地域住民や卒業生との協力のもと、講演会や地域行事への参加等、外部との交流を実施する。	アドミッション・ポリシー <入学者の受入れに関する方針> ① 目的意識を持ち、夢を叶えるための努力をする生徒を募集する。 ②自ら課題を見つけ、解決に向けて主体的に取り組む態度・姿勢を持つ生徒を募集する。 ③社会をけん引するリーダーとなる志を持つ生徒を募集する。

学校自己評価（ 4：よくできた 3：おおむねできた 2：あまりできなかった 1：できなかった ）							
		A≧3.3 3.2≧B≧2.5 2.4≧C≧1.6 1.6>D					
領域	評価の観点	評価項目	実践目標	令和6年度		令和5年度	
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	学校のHPを通じて、学校の情報を可能な限り公表し、内容の更新も月ペースで実施する。	2.9	B	2.8	B
			中学校訪問、オープンハイスクール、オープンスクール、学校説明会等を通じ、学校のPR活動を充実させる。	3.2	B	3.3	A
		地域や関係機関と連携した学校づくり	地域や近隣の学校・関係諸機関との連携を密にし、不審者等の情報を共有する。	3.1	B	3.3	A
	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	職員・生徒・保護者に生徒指導方針を明確にし、共通理解を図る。	2.8	B	2.9	B
			随時個人面談を実施するとともに、家庭との連携を図り、必要に応じ家庭訪問を実施する。	3.2	B	3.1	B
			キャンパスカウンセラーによるカウンセリング研修を実施し、生徒の内面理解に基づく指導について実践力を向上させる。	3.2	B	3.2	B
	進路指導	生徒の自主・自立の精神を育む指導の工夫	教育相談を充実させ、生徒の内面理解を深める。	3.1	B	3.2	B
			生徒会活動、部活動を活性化し、生徒の自立意識を高め、一人一人の生徒が自己の特性を生かし、創造性、協調性を発揮して、充実した活動ができるように努める。	3.1	B	3.2	B
			三年間を見据えた進路計画を作成し、組織的・継続的な進路指導を行う。	3.0	B	3.0	B
	進路指導	進路指導の充実	進路状況、模試等の結果を分析し、進路指導に活かす。	3.1	B	3.0	B
			模試等の結果を分析し、学習指導に活かす。	3.0	B	2.9	B
			「進路情報」の発行により、生徒・保護者に的確な情報を提供する。	2.6	B	2.8	B
			職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	外部講師を活用した講演会、大学出前講座等により、生徒の進路意識を向上させる。	3.3	A	3.2
	主体的な進路選択能力の育成	LHRや総合的な探究の時間で職業観、勤労観を育成する。	2.9	B	3.0	B	
LHRや総合的な探究の時間で、自らに適した職業、学部・学科等を見つけることができる力を身につけさせる。		3.2	B	3.1	B		
教職員の資質向上	計画性を持った研修の実施	研究授業、公開授業を積極的に行い、教科指導の工夫と指導力の向上を図る。	2.9	B	3.0	B	
		進路、生徒指導、保健、人権等、学校の諸課題について職員研修を実施する。	2.9	B	2.7	B	

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	令和6年度		令和5年度	
教育課程	教育課程	教育課程の編成	教育目標の実現を目指して、生徒・学校の実態を考慮した適切な教育課程を編成する。	3.1	B	3.0	B
		教育課程の実施運営	1回当たりの授業時間（65分授業等）、定期考査の実施時期などを検討し、本校に適した制度を見出す。	3.1	B	2.9	B
	基礎基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定	定期考査等で生徒の学力を的確に把握し、その結果を授業、補習、補充等での指導に反映する。	3.2	B	3.0	B
			指導と評価の一体化を実現し、3観点の評価と10段階評価との充実を図る。	2.9	B	3.0	B
	個に応じた学習指導	指導形態の工夫	習熟度別指導、少人数指導、同室複数指導等で、個に応じた指導を行い、学力向上を図る。	2.8	B	2.8	B
			年間計画に基づいて、計画的、系統的に学習指導を行う。	3.1	B	3.1	B
			自ら主体的に学ぶ習慣を身に付けさせる。	2.8	B	2.8	B
	総合的な探究の時間	実施計画	探究企画部、進路指導部を中心として、3年間を見据えた指導計画を作成する。	2.9	B	3.1	B
		創意工夫を生かした実践の展開	図書館やタブレット端末等を利用した探究活動や、発表等による表現活動を行う。	3.1	B	2.9	B
	特別活動	学校行事の精選と内容の充実	行事を精選し、適切な時期に実施する。	2.9	B	3.0	B
			行事内容の充実を図る。	2.8	B	2.9	B
			学校行事実施後はアンケート等により、その結果を次回に反映させる。	3.0	B	3.0	B
課題教育	課外活動	ボランティア活動	生徒会を中心として、ボランティア活動、募金活動等に積極的に参加する。	3.2	B	3.0	B
	人権教育	人権意識の育成	人権HRや講演会等を計画的に実施し、人権についての意識を向上させる。	2.9	B	3.2	B
		実践力の向上	学校全体の教育活動を通じて、人権を相互に尊重しあう意識、姿勢、実践力を向上させる。	3.0	B	3.0	B
	防災・安全教育	教職員の防災教育に関わる指導力・実践力の向上	防災（避難）訓練の実施を通し、防災について認識を深め、防災マニュアルの周知を図る。	2.9	B	3.2	B
			救急救命講習（AED等）を実施し、救急時に対応できる実践力を身につける。	3.3	A	3.4	A
		実践的な安全教育への取り組み	生徒会、運動部の生徒を中心とした救急救命講習を実施する。	3.5	A	3.4	A
	国際理解教育	コミュニケーション能力の向上	家庭、関係機関との連携を深め、交通安全指導を強化し、交通ルールを遵守させ事故防止を図る。	3.4	A	3.3	A
			ALTを外国語の授業に積極的に活用し、コミュニケーション能力の育成を図る。	3.2	B	3.2	B
			ALTを授業以外にも積極的に活用し、異文化理解の深化を図る。	2.7	B	3.0	B
	国際理解教育	交流事業の推進	国際交流について、今後のあり方を検討し、方向性を決める。	2.6	B	2.6	B
			情報教育	情報活用能力の育成	教科「情報」などを通して、機器の活用法・情報モラルを含め、情報活用能力の育成を図る。	3.0	B
	体験活動	就業体験活動の推進	保育実習、企業等での体験講話などを通して、職業を体験し、進路についての理解を深める。	2.7	B	2.5	B
		地域貢献活動の推進	地域行事への参加、学校周辺の環境美化、近隣の小中学校との交流等、地域との連携を深める。	3.2	B	3.0	B
	コース・特色	総合理数コースへの指導	総合理数コース生徒に対して、計画的・系統的な指導を行う。	3.2	B	3.1	B
	主権者教育	18歳成人としての取組	18歳成人としての責任ある大人としての自覚を持たせ、学校、地域の発展のための方策を考える。	2.8	B	2.8	B